

1. 京都・清滝川Pw

(報告者 11 期 加藤忠好)

・実施日 2018 11/14(水)

・報告

名所の多い京都でも、紅葉の頃というのは何を見にこんなに集まったのかと思われるくらいに人が溢れている。日本語より外国語が多く聞こえるという感すらある。

サンマP2018 実施の山上で、次回の山行きは京都・保津峡あたりを歩くことが決まった。企画は8期伊豫さんだ。

案の定、京都駅JR嵯峨野線ホームは人が溢れていた。しかし、嵯峨・嵐山で人がどっと降りてゆく。京都から奈良線に乗っていても、満員なのは伏見稲荷までである。京都といえども有名観光地は超満員であるが、それ以外はそうでもない。狙いはこれである。

我々が下車した保津峡駅は紅葉のシーズンであるにもかかわらず駅員すらいない。保津峡を眼下に眺め桂川の下流方向に歩く。トロッコ保津峡駅に架かる吊り橋が峡谷に風情を添える。まだ、このあたりは緑である。「あれっ、この道は平坦だったはず・・・」それは若さゆえの錯覚であったようだ。どうやら年齢の増加と共に坂道センサーの感度が鋭敏になるようだ。約30分歩いて休憩。

そこは清滝川が桂川に注ぐ合流点なのだ。足がすくむような岩の上に立てば、保津峡下りの舟がゆっくりと下っていく。大声で呼び、手を振ると、先方も手を振り返す。我々がとんでもない高さにいるので、驚いているようでもある。ここは「科捜研の女」でよく出てくる絶壁、好撮影地なのだ。

桂川から今度は清滝川を遡上する。溪谷の規模は小さくなるが、山水画の中を歩く気分の道だ。栈道とまでは行かないが、谷は瀬となり淵となりいろいろな顔を見せる。

格好の岩があったので休憩。今日は伊豫さんの誕生日なのだ。自分の誕生日に山歩きが企画できるなんて羨ましい。臨時京都在住の金井さんが京都でも有名名店のバースディケーキを買ってきた。早速ローソク、年齢には少し足りない本数だけど、みんな童心に戻り笑い、おいしくいただいた。

清滝の集落に出る前の最後に谷が曲がるあたりから紅葉が盛りになっていた。水があるので、紅葉が一層映えるようだ。



《清滝川にて紅葉鑑賞》

清滝に至り、金鈴橋、渡猿橋という優雅な名前の橋の間、紅葉に囲まれるような河原に下り昼食。伊豫さんや赤地さんの作る温かいみそ汁や卵とじスープを堪能した。

清滝は愛宕山の登山口で紅葉も美しいが、ここまでの谷筋の道はなぜか人がこない場所である。迷い易い場所があるのと、軽山靴ぐらいが必要な道であるからだろうか。

清滝からは林道ぐらいの幅がある道で清滝川を遡る。相変わらず兩岸が迫り、峡谷が続く。この道は周山街道を経て若狭に抜ける道でもある。台風で倒された倒木もあり。ちょっとスリリングな気分も味わえた。沈下橋を越え、美しく手入れされた杉林を過ぎ、清滝発電所の取り入れ口まで来れば神護寺はもうすぐである。金井さんに合わせ伊豫さんは高雄橋で待つという。残り12名は階段を登った。汗ばむほどだ。紅葉は見頃。観光客もほどんど居るが、それほど多くもない。境内の紅葉を愛で、瓦け投げに興じ、待ちくたびれていた2人に合流。滝頂橋、指月橋を過ぎ、槇ノ尾BSからJRバスに乗った。



《神護寺にて紅葉鑑賞》

昼食時、急遽晩飯も京都でということになり金井さんが超人気店「黒猫軒」を予約。突然だったので無理と思われたがOKだったのだ。わ

ら天神BSで下車。時間があつたので桜宮・平野神社見物で時間調整。十月桜が咲いていた。黒猫軒では日本風の出汁と胡椒辛味の京都味のする中華料理を堪能した。

2. 龍野の山と城下散策Pw

(報告者 11期 加藤忠好)

- ・実施日 2018 12/13(木)
- ・報告

城下町というのはその地域の文化の中心地でもある。町が誇る文学者が1人や2人は居るものである。龍野では、まず三木露風が挙げられる。彼の作った童謡にちなみ、町じゅうに「赤とんぼ」があふれている。「赤とんぼ」は知られているが、龍野はあまり知られていない。姫路から中国山地の方に分岐するJR姫新線というローカル線に乗ったその先にあるのでなおさらである。

龍野には、金井さんを除いた全員が定刻前に集合した。小さな城下町は揖保川を挟んだ対岸の山側にある。車の多い道路は避け、用水の点検路のようなマニアックな道、歩行者専用橋で揖保川を渡った。山際であっても、川に近いところは洪水に遭い易い。ここでは、万が一の時には、堤防の上に畳を差し込んで嵩上げする工夫がしてあった。畳を犠牲にして洪水を防ぐ。おもしろい考えだ。橋を渡るとタイムスリップした町並み。一方、龍野醤油で有名な街。レンガ煙突が町並みにちょっと近代的な風情を添えていた。



《龍野城・隅櫓》

大手門から城に入った。おやっと思うほど小さい。昔は山の上に城があったようだが、平和な江戸時代には山を降り陣屋形式の形だけの城で十分であったのだろう。本丸御殿は後ほど見学することにし、山際の猪除けの柵を開けこ

こからいきなり山道に入った。ここは、城から紅葉谷への抜け道なのだ。

紅葉谷は字のとおり紅葉の名所だが、12月も半ばであるので大量の紅葉葉が散ってきた。そのような風情のある道を歩いた。気分はのんびりでも相当急である。



《相撲の祖：野見宿禰の墓にて》

野見宿禰の墓への急階段を登り、墓の上で休憩した。龍野の街が眼下に、さらに姫路あたりまでの大展望が楽しめた。ここからが高三郎を思わせる急登の連続。標高差60mで次の休憩とした。やはり我々は十分に「お年頃」なのだ。次は90mで休憩。稜線に出ると平坦に感じられた。それは比較の問題で、稜線の道でも90m登ったのだからそれまでの道がいかに急だったかわかる。近畿支部初参加の16期井上さんは高三郎のような道がずーっと続くのではないかと不安だったよう。私も下見の時はそう思ったものだ。

山頂近くでは桐が実をつけていた。花札の12月が桐であることが良くわかるような形をしていた。標高394.4mの的場山で昼食とした。暖かいものがうまい。いつものことながら伊豫さんに感謝。

山頂から両見峠へは2ピッチ1時間弱で下山できた。ここも先ほどでもないが、かなり急だった。両見峠からはのんびりとしたほぼ下りの紅葉の道。

午後から参加という金井さんからの携帯が鳴った。すぐ近くの聚遠亭まで来ているらしい。龍野神社を経て聚遠亭の庭で合流。木箱に入った小山ロール持参である。早速、大中小で不公平の平等を楽しんだ。

殿様の居住地であった御涼所は、自分で戸を開けて入って良いとのことだった。さすがに江

戸の秩序が残っている街だ。内部見学したが、意外と狭い生活空間に驚かされた。

再び龍野城に戻り、本丸御殿を見学、昭和の終りに再建されたものらしいが、ここも無料だった。木造建築というのは威厳があってもどこかに職人の手になる温かみを感じる。三木露風の生家も見学した。

打ち上げは姫路駅の明太子食い放題の店、楽しかった一日を振り返った。東海から参加の野村さんは新幹線で帰っていった。

3. 京都・大内山 P w

・実施日 2019 1/31(木) 雨天により中止

4. 京都・大内山再 P w

(報告者 11 期 加藤忠好)

・実施日 2019 2/1 (金)

・報告

たった 1 日延期したのに、苦労なしで 2 月の企画ができてしまった。

この山城は金閣寺、龍安寺、仁和寺という超有名な観光地に接しているが、コース自体についての情報は非常に少ない。いわゆるほぼ誰も来ない京都の山なのである。

集合は 10 時 45 分、府立堂本印象美術館とした。京都市街でも北のほう、ここなら早く着いた人も時間つぶしに事欠かないだろう。それに 65 歳以上は無料なのだ。結果的には 10 時頃にはほぼ全員集合していた。

絵画鑑賞もトイレも済ませ 10:50 頃出発。衣笠山登山口まで約 5 分、急登を約 5 分登った所で服装調整休憩。冬ということもあるがみんな厚着なのだ。私も風邪ひき後の下見の時にバテたところだから、ゆっくりと登る。稜線までの標高差 80m を約 15 分で登りさらに 11 時 15 分には衣笠山の山頂に居た。よく知られた山なのに、測量の都合で三角点はないとしても、山頂の標識すらないのだ。しかし、この山の特典は、金閣が無料で望めることだ。ここからの風景は絶景ではないが、「得」をした感じがうれしい。

衣笠山からは龍安寺の裏山を縦走することになる。頂上から鞍部へ直下の道は、前日の雨で滑りやすいと判断し、少し戻ってトラバース道を歩くことにした。

鞍部に着いて驚いたのは、女性 4 人だけしか居ないのだ。コースを記入した地形図を全員に

配ったのと、たった 7 分しか歩いていないのに・・・。10 分ほどして男 10 名が到着した。どうやら低山なのでなめてかかったようで、女性との間隔が開いたためトラバース道の入口に気づかなかったようだ。低山でもここは秘境と言っていたのにである。



《参陵道：一条・堀川天皇陵》

秘境！！そう、ここは平安時代の宇多、円融、一条、堀川の天皇陵や火葬塚が続く山稜なのだ。登山道でなく参陵道というらしい。

鞍部から南西に回ると、パッと視界が広がった。京都の低山で、こんなに視界の広がる場所は珍しい。山上にあるしっかりとした石組みの建造物は城ではない。江戸末期、尊王思想により江戸幕府によって整備された一条・堀川天皇陵なのだ。ここに立つとその気運の上に明治維新があったことが感じられ面白い。陵の前庭で昼食とした。好展望、眼下に仁和寺・五重の塔や雙ヶ岡も見える。

陵を回るように石畳の道を北に約 5 分登ったピークが円融天皇火葬塚である。火葬塚というのは火葬したと伝えられている場所で、天皇陵は別の場所にある。

ここから、稜線を西に入ると山道になる。少しばかりのアップダウンはあるが、気持ちのよい道である。時々龍安寺の寺領の石標に出くわす。途中、水井山から比叡山が東方に見えた。青い裾野から稜線近づくにつれ真っ白だ。前日は雪だったのか。雪山を近くで見ると、ここは山奥かと錯覚してしまう。

今回の目的地・大内山。が、地形図には記入されていない山だ。面白いことに仁和寺の伽藍の真上に聳える山であるが、仁和寺の寺領でなく龍安寺の寺領であるという。どうやら、室町時代の寺の力関係からそうなったようである。仁和寺から程近い「船屋秋月」に「大内山」なる菓子があったので、由来を聞くと知らないとい

いう。あとで調べたら、仁和寺の山名が大内山だったのだ。

その大内山が龍安寺に乗っとならされているというのも仁和寺の大きさであろうか。大内山の山頂には山名の標識はないが龍安寺の寺領を示す石標があった。菅原道真を重用した宇多天皇の陵を大内陵と言う。実際訪れたが、宇多天皇陵は大内山裏側の沢の源頭のようなところにあった。火葬されたまま長い間に所在不明であったが、これも江戸末期に火葬塚と伝わる場所を整備したようだ。天皇陵にしては、湿気の多そうな場所、かつ周辺より陵を見下ろせる不思議な場所だった。

陵から一旦原谷に抜ける峠道に出て、ややこしい工場裏のややこしい道から、御室八十八ヶ所巡りの道に出た。八十八ヶ所巡りは、単に石仏が置かれているところが多いが、仁和寺の境内でもあるこのは、それぞれに人が入れる大きさのお堂が建っていた。原谷の峠から約 20 m 登った好展望所で大きなアップルパイを持って金井さんが待っていた。大展望を楽しみ、最高峰の成就山を越え、逆巡りで歩き、最後に結願所大窪寺に参った。それから仁和寺に入り境内を巡った。



《仁和寺の境内から大内山をバックに》

今日の打ち上げも「黒猫軒」。藤井さん、高村さん、井上さんが帰るといので、時間的余裕もあるので、仁和寺駅から全員が嵐電に乗りし 3 人を見送った。残り 13 名は等持院駅で下車。等持院、二条天皇陵をチラッと見て「黒猫軒」に定刻 17 時半に着いた。

5. 泉州・雨山 Pw

(報告者 15 期 三宅 毅)

- ・実施日 2019 3/14 (木)
- ・報告

近畿OB会ではあまり行っていない大阪府南部泉南にある雨山(312m)を中心に展望の良い尾根歩きを企画した。雨山は登山にはふさわしくない名前だが雨乞いの山で干天の時は

村人がこぞって参拝し雨乞い踊りを奉納したそう。また南北朝の時代には紀州と泉州を結ぶ粉河街道を抑える軍事要塞として雨山城、土山城があり南朝と北朝の間で争奪戦が繰り広げられたそうである。



《雨山をバックに》

J R 大阪駅から約一時間の日根野駅にて午前 10 時参加者 10 名全員集合。南海バスに乗り換えて 10 分で登山口の土丸バス停到着。ここは泉佐野市である。ここから土丸城跡に向かう。急な丸太の階段を 15 分登ると鉄塔のある広場で展望が開け眼下に関西国際空港が良く見える。ここから岩場の急坂を登る。快晴の早春の日差しはきついが真っ青の空が綺麗で展望も良い。15 分程で土丸城址着。曲輪がはっきりと残っている。西側大阪湾の方が大きく開け関西空港や日根野周辺の貯水池がたくさん見える。淡路島や六甲山は霞んではっきりは見えない。土丸城跡を少し下って登り返すと雨山頂上 312 m で立派な祠と休憩小屋がある。井戸跡、千畳敷跡、月見亭跡などが山城の名残を感じさせる。ここも眺望が良く大阪平野、大阪湾を眺めながら昼食。雨山を後に急な岩稜の登り下りが暫らく続くがアルペン気分満点だ。展望は抜群で南側に大阪和歌山県境の和泉山脈、眼下には最終到達地点の永楽ダム湖が見える。谷を挟んだ向かいの尾根上にこれから行く展望台が小さく見える。

尾根を一旦 100m 下り展望台まで 80m 登り返すのが辛い。皆さんの顔に嬉しくない表情が出ている。何とか展望台まで登り返し記念撮影。360 度の展望を楽しんだ後は一気に 150m 下ると永楽ダムに到着。振り返ると展望台が遥か高くと見える。歩行時間約 4 時間、最高標高 312 m だがアップダウンが多くてなかなか歩き応えのあった PW でした。

最後に参加した皆さんからのメールの一部を紹介します。雨山 PW の雰囲気良く出ていると思います。



《岩稜を歩く》

『昨日は三宅晴れ。久しぶりに岩稜混じりのアルペン歩きができ満足しています。地形図では、三宅さん特有の二度返しのアップダウンを予想していましたが、小さなコブも結構多く、推定登山標高よりもうんと多く歩きました。そのせいでしょうか、脚の筋肉が結構張っています。日頃ぐうたらをしているので、この運動は良かったのかも。山歩きは良いですね。それに、好展望の山、春の霞がありましたので我が家は確認できませんでしたが（当然か？）、淡路島がうっすりなど、そこそこ見えていました。眼下には中世から変わらず見える田園風景、城を守る兵士の如くに眺め居りました。急な上下移動で汗もかきましたが、水分もさほどいりなくてもなく、やはり、早春の山ですね。』

さほど有名でもなく貸し切り状態で歩けた山、それでいて楽しめた山、三宅さんの慧眼に感心するとともに感謝感謝です。』

『泉州・雨山PWは見事な晴れ日。雨山を通称、晴山と呼んでも良い程。最高峰が 314m とのことです。ストック無しで歩いたのですが、アップダウンが想定外にきつく、山は高さだけではないと再認識。周りによく似た山々があり、興味が引かれる地区ですね。』

『レアコースの一日ありがとうございました。電車で大阪湾を周って日根野方面に行くというのは滅多にないことなので、距離以上に遠出した気分になって満足でした。登り下りはあったものの、ワンピッチ未満の行程だったのでそれ程足に来ることもなく、今日の階段の上下も支障なしです。ただ、片方の踵が痛く、最近長歩きするとなるので、足の肉厚が減ってるのかもしれないですね。写真は整理後お送りします。ではでは』

『この山行きはお天気の良さと眺めの良さと、最後に思いがけないハプニングがあったりして最高でした。良き思いをさせてくださった

三宅さんや同行の皆さんに本当に感謝です。

（中略）展望台で皆さんと別れ、「成合口」のバス停まで一人 52 歳の身体を駆使して（笑）30 分ほど（3 時 35 分）でつきました。4 時 17 分のバスまでかなり時間があるので日根野の駅まで歩こうと思いバス停の前で耕耘機を使っていたおじさんに路を尋ねたら「日根野」より「熊取へ送って行ってあげる」と耕耘機をそのままに軽トラに乗せてくれました。且つ途中自分の家に立ち寄り（3 階建ての無茶でっかい建物）おっきなミカンとお茶をいただき、きっちり時間を合わせて熊取駅 4 時 24 分発「関空環状線外回り急行」に乗れました。おかげさまで、余裕をもって日本語教室に間に合いました。』

6. 金勝アルプス・天狗岩 P w

・実施日 2019 4/25(木)雨天により中止

7. 金勝アルプス・天狗岩再 P w

（報告者 15 期 宇野 潔）

・実施日 2019 5/8(水)

・報告

10 年ぶり 2 回目の金勝（こんぜ）アルプスです。金勝山（鶏冠山、龍王山）一帯を近江湖南アルプスと呼んでいます。山は風化花崗岩地帯で、突き出た天狗岩や耳岩からの眺望が楽しめます。また、平安時代に作られた狛犬摩崖仏や逆さ地藏などの史跡もあり楽しいコースです。



《旧狛犬寺の磨崖仏》

前回は金勝寺（こんしょうじ）林道を馬頭観音までタクシーで行き、ほとんどの高さを稼ぎましたが、今回は上桐生のバス停からの周回コースとし、標高差 430m でした。

雨のため順延して快晴の PW となりました。バス停から、養蜂場のそばを通り、沢筋を落ケ

滝に立ち寄り稜線を目指します。

ところどころ、渡渉しながら進みます。途中からは、花崗岩の岩肌をロープで登る所もあり、明るい沢筋の登りは楽しいものでした。でも、雨上がりなどは歩けそうなルートでは有りません、実施日を延期してよかったと、一人で納得していました。岩の登りは高度が稼げます。鶏冠山と白石峰（本日最高峰）との稜線の鞍部に出て一休みです。少し進むと見晴らしの良い稜線となり、天狗岩の雄姿？が目の前に現れました。風化花崗岩独特の岩の稜線をまずは天狗岩を目指します。



《天狗岩上で》

天狗岩は眺望もよく一番人気の場所です。アルミの梯子も設置してあり 360 度の展望が楽しめました。ここで昼食を予定していましたが、陽射しが強く暑すぎました。ということで人が多くても狭い木陰で食べました。お茶会は耳岩の秘密の岩テラス（前回使用）で行いました。案の定、秘密の岩テラスには先客はいませんが、見晴らしはいいものの、滑り落ちれば・・・と不安の声もあり結局、自己責任組と慎重組とお茶会は2か所に分かれて開催しました。

天気は快晴で、見晴らしも良く気持ちの良い稜線を、岩の間を縫って白石峰まで登りました。本日の最高峰！白石峰です。実は、今回は、登頂は有りません。ピークハンターはしない計画でした。はい、ここで記念撮影！平成最後のPW予定が雨天延期により、令和第1回目の記念すべきPWになりました。

下りは、国見岩を經由し、狛坂寺跡にある狛坂摩崖仏を見学。平安期（奈良説もある）に彫られたもので高さ約 6m、幅約 4mとの事で、見上げる大きさでした。のんびりと春の日差しを受けて、逆さ地藏（オランダ堰堤の石を取るための工事で、転げた）やオランダ堰堤（明治

時代にオランダ人技師に造られ 110 年が経過）を經由して、無事出発地の上桐生バス亭に到着しました。

天気の良い春の1日、変化にとんだ楽しいコースを堪能しました。

後は、南草津のスーパー銭湯「極楽湯」で汗を流しました。

8. 清和源氏ゆかりの地巡り Pw

（報告者 5期 金岩 孜）

・実施日 2019 6/3（月）

・報告

6月のPWは梅雨入りの心配もあったが、多少の雨でも決行できるコースということで、阪急宝塚線山本駅から最明寺滝に立寄り満願寺を経て多田神社に参拝して多田駅まで歩くコースで設定された。

参加人数は8名に留まったが、晴男のM氏の念力によって好天、それも初夏の爽やかな暑さを伴った青空の下でのウォーキングになった。

実施当日、集合地の阪急宝塚線山本駅から5分程の「あいあいパーク」（英国の地方都市サリーの17世紀頃の佇まいを再現して造られた宝塚園芸振興センター）に全員が集合時刻までに揃ったので当日の行動予定等を説明し足取り軽く出発（10:13）。



《集合地、あいあいパーク》

まずは駅前の「木接太夫彰徳碑」に立ち寄った。山本地区の園芸は平安時代から千年の伝統があり、接木という園芸史上画期的な技術が開発され、秀吉から「木接太夫」の称号が与えられた。それを顕彰する碑が前述の「木接太夫彰徳碑」。以前はこの山本辺りは園芸関連業者が軒を連ねていたが、今は住宅街に様変わりしている。ウォーミングアップ歩きを終え、本格的な歩きに移り、最明寺滝へと向かった。舗装道路歩きで汗ばみそうになった頃、木陰の続く土道に変わり元気を戻して更に進む。

心霊スポット寺院の宝教寺を横目に「大聖不

動尊」標示の山門をくぐり抜け、最明寺滝への谷川添い山道を足元に注意しながら進むと、目的の滝に着いた（10:50）。

不動明王像なども祀られていて修行場の雰囲気であり、祭事準備中なのか数名の若者が忙しそうに動き回っていた。



《最明寺滝》

山門手前の分岐点まで戻り、今度は切畑川堰堤階段を上って満願寺へと向かった。

緩い上り道を進み中山連山への分岐を過ぎると間もなく「井植（イウエ）山荘」の正門が目に入ってきた（11:13）。内部には人気がないが、調べてみると近年毎月第一日曜日に公開されていることが分かった。興味深い山荘である。この山荘の裏に隣接して「大聖不動明王」があり、不動明王像が祀られていた。そして入口脇の石柱に印されていた奉納者名から山荘と深い関係のあることが伺えた（11:40）。

ようやく満願寺近しである。が、空腹感も増し先導者は足早になってきた。

丁度昼に満願寺に到着（12:05）。金剛力士像の迎えを受け仁王門を通る。全員揃ったところで、先ず昼食。それから境内をウロウロ。

金堂、毘沙門堂、源家七塔、不動明王像、坂田金時の墓、四国八十八箇所巡り第1番地藏、二人塚や太子像と九重石塔などを。清和源氏ゆかりの祈願所らしさが感じられた（～13:15）。

満願寺墓地と愛宕原ゴルフ場の間隙道を道標に従って多田神社に向う。舗装道路に照り返す熱気で汗ばみ出した頃、ゴルフ場脇から外れ歩行者専用の下り山道になり、木陰も多く助かった。が、10数分で湯山台の住宅街に。みんな黙々歩くのみ。

下見のお陰で迷うことなく、目的地地藏尊に行着き住宅街を後にすることが出来た。残の行程の目処が立った。10数分行くと、案内マップ

にも載っていた「西多田皇太神宮」があり、参拝した。立派な農家集落のはずれに、社がひっそり佇んでいた。お世話する人の高齢化に因るのだろうか。

車が行き交う道路の高架橋を渡って住宅街を抜けると遠くに多田神社の大鳥居が見えてきた。赤い御代橋を渡り、最後の元気を絞って階段31段を上り多田神社に着いた。

休憩所が目に入り、先ずは休憩。大中小と三ツ矢サイダー付きで。

多田神社は、天禄元年（970年）、源満仲がその前身の多田院を建立。今の建物は、徳川4代将軍家綱によって再興され、源満仲、頼光、頼信、頼義、義家の五公が祀られている。神社一帯は神聖な雰囲気に包まれて国の史跡に指定されおり、本殿や拝殿を始め国・県の指定を受けている文化財が多数ある。南大門に立っていた金剛力士像は明治の神仏分離令で多田神社になった際、満願寺に移されてしまった。また、指定外ながら64代横綱曙と65代横綱貴乃花による奉納手数入記念植樹の2石柱も建てられていた。



《多田神社・拝殿》

東門から退出（15:30）、打上げ会場である多田駅前の「餃子の王将」へ向かった。店内は夕刻のラッシュ前で、我々は伸び伸びと放談、大いに盛り上がったのだった。（自宅から計19,700歩）

実施に当たって、事務局を始め参加各位による絶大なご協力に篤くお礼申し上げたい。どうもありがとう！

近畿支部の活動まとめ（サンマP2018以降）

2018 11/14(水)	京都・清滝川Pw（企画 伊豫）参加者14名
金岩⑤、篠島⑧、伊豫欣⑧、高水間⑧、伊豫敦⑩、藤井⑩、加藤忠⑪、加藤智⑪、 畔山宏⑪、赤地賢⑫、楠屋⑭、宇野あ⑮、金井⑮、高村⑮	
JR保津峡駅～保津峡～落合橋～清滝～高雄・神護寺～槇ノ尾BS	
2018 12/13(木)	龍野の山と城下散策Pw（企画 加藤）参加者13名
金岩⑤、伊豫欣⑧、篠島⑧、伊豫敦⑩、加藤忠⑪、加藤智⑪、畔山宏⑪、野村⑫、 宇野あ⑮、金井⑮、三宅⑮、鈴木⑮、井上⑮	
JR本龍野駅～龍野城～紅葉谷～野見宿禰神社～的場山～両見峠～紅葉谷～ 龍野神社～聚遠亭～龍野城～三木露風生家～JR本龍野駅	
2019 1/31(木)	京都・大内山Pw（企画 加藤）雨天中止
2019 2/ 1(金)	京都・大内山再Pw（企画 加藤）参加者16名
金岩⑤、伊豫欣⑧、藤井⑩、加藤⑪、加藤智⑪、畔山宏⑪、野村⑫、赤地賢⑫、 赤地喜⑭、三宅⑮、金井⑮、間所新⑮、間所美⑮、宇野潔⑮、高村⑮、井上⑮	
堂本印象美術館～衣笠山～一条・堀川天皇陵～円融天皇火葬塚～（参陵道）～大内山～ 宇多天皇陵～原谷峠～成就山～霊山寺～大窪寺～仁和寺～嵐電・仁和寺駅	
2019 3/14(木)	泉州・雨山Pw（企画 三宅）参加者10名
金岩⑤、篠島⑧、藤井⑩、加藤忠⑪、加藤智⑪、畔山宏⑪、赤地賢⑫、鈴木⑮、 三宅⑮、宇野潔⑮	
JR日根野駅＝土丸BS～登山口～土丸城跡～雨山城址（山頂）～小屋谷頂上～ 永楽池～奥ノ池～＜東コース＞～展望台～永楽ダム～浪商学園前BS＝JR熊取駅	
2019 4/25(木)	金勝アルプス・天狗岩Pw（企画 宇野）雨天中止
2019 5/ 8(水)	金勝アルプス・天狗岩再Pw（企画 宇野）参加者13名
金岩⑤、伊豫欣⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、楠屋⑭、三宅⑮、 高村⑮、宇野潔⑮、間所新⑮、間所美⑮、井上⑮	
上桐生BS～落ヶ滝～鶏冠山分岐～天狗岩～耳岩～白石峰～国見岩～狛坂摩崖仏～ 出合～逆さ観音～オランダ堰堤～上桐生BS	
2019 6/3(月)	清和源氏ゆかりの地巡りPw（企画 金岩）参加者8名
金岩⑤、伊豫欣⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、楠屋⑭、三宅⑮、井上⑮	
	
《京都・大内山頂上で『山』『内』『大』の人文字で遊ぶ》	